渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743

樹々の若葉が初夏の日差しにまぶしく輝いています。
緑に包まれる清々しいこの時季は、なぜか心が弾みます。
お変わりありませんか？

五月晴れに恵まれたゴールデン・ウィークは如何お過ごしでしたでしょうか？　今年は海外からの観光客も多く見受けられ、どこも賑わっていたようです。
久し振りに活気が戻ったのは嬉しいことですね。
長い休暇のお疲れが出ないよう気をつけてお過ごしください。

失敗しない家づくりのポイント（１）

今回からは新たに、失敗しない家づくりのポイントについてお話しさせていただきます。
大切なお住まいづくりの参考になれば幸いです。

１.不動産としての価値を落とさない。

これから私がなぜこの話をするか。その前にその背景について皆さんに知っておいて欲しいことがあるのです。
古い話ですが第二次大戦後、日本中、住む家が不足していました。
とにかく早く、家族が住める家を建てないといけない。
そんな状況の中、様々な問題が住宅業界で起こりました。

「シックハウス問題」
「誤った間取りのせいで家族間の会話が奪われ、
精神的病気を引き起こす」
「建物が呼吸できず、建物寿命が短い」
「住宅ローンが原因で、自己破産者が発生」
「環境（産業廃棄物）問題」

マイホームは、人が幸せになるために手に入れるものですよね。
でも、家を建てたために・・・
話がそれてしまいました。
本題は「不動産価値を落とさない」ことについてでしたね。

日本の住宅の平均寿命は２６年ともいわれています。ところが驚くことに１５年で建物の価値はゼロになります。しかし、住宅ローンは３０年以上、常に負債を抱えていることになっているのですね。

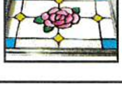
では、どうすればいいでしょう？
そう、誰もが欲しくなる土地を選ぶこと。
そして誰もが住みたいと思う家を建てることです。
具体的には、「駅に近い」「学校が近い」「買い物が便利」更に「病院が近い」「銀行が近い」・・・など生活の便がいい土地です。

建物は、３０年たっても買い手がつく家にすること。そうすると不動産価値は目減りしません。なかなか難しいですが、家を建てる時は、同時に将来売ることを考えて建てましょう。

次号に続く

「夏座敷」

夏座敷は、湿度の高い日本の夏を過ごす為に考えられたしつらえのこと。襖や障子を開け放して風通しを良くし、室内や調度品を夏向けの物に取り替えます。
現代の住まいにおいて、以前と全く同じことを再現するのはかなり難しいですが、エッセンスを取り入れることはできます。
例えば部屋の見た目をスッキリ整えたり、風の通り道を作って涼しさを感じられるようにしてみたり。又、ラグやクッションカバーの色や素材を、ブルーやグリーンなどの寒色系を用いたり、オーガンジーや麻のような透ける素材で涼しさを演出するのは定番技です。
ガラス製の小物で、透明感やひんやり感を添えても良いでしょう。
更に涼を感じる為に、風の通り道にのれんやストリングスカーテンを掛けてみましょう。



軽い素材のものなら少しの風でも翻るので、更に涼しさを感じられます。

声を聞かせてください

５月の第２日曜日は母の日でした。
皆さんは、この日をどのように過ごされたのでしょうか？
一緒に住んでいる方は勿論、離れて暮らす方も、普段は言えない感謝の気持を伝えてくださいね。
「お母さん、いつもありがとう」って。

今回は、母の日にまつわるお話です。

20年も前の話ですが、聞いてください。

今でもそうなのだけれど、人付き合いが苦手な俺は、勤めていた会社を辞めて、ひとりで出来る仕事を始めたんです。

自分の車に工具を積み、電気製品の取り付けや修理をする仕事で、声が掛かれば東でも西でもどこへでも出向きます。

今でこそ誰でもが利用できる携帯電話ですが、その当時は未だとても高額で、俺は仕事の電話をポケベルに転送して、留守番電話を聞いて、それからお客さんに連絡する、という方法しかとれなかったんです。

生活もギリギリだった。

そんなある日、母親が九州の実家から関東の俺の家まで訪ねてきた。

心配して、わざわざ遠くから来てくれた母親を労わることもせず、不愛想な俺。
本当にバカだ。

掃除や洗濯はもちろん、俺の好物をたくさん作り置きし、そして山ほどの食料を置いて母親は帰郷した。

バカ息子は礼も言わず、見送りさえしない。

仕事を終えて帰宅した俺は、小さなテーブルの上に残された母の手紙を見つけた。

「仕事、頑張って下さい。
少しですが、これで携帯電話でも買って、
たまには声を聞かせてください」

手紙には、お金が同封されていた。
その手紙を手に、俺は声をあげて泣いた。

カメラやメールなんて出来ない。
メモリーも50件しか入らない初期の携帯電話。
でも、でもこの電話にどれほど助けられたことだろう。俺にとっては最高の宝物だった。

母の日に電話をした。
ちゃんとお礼を言わなければ。
「お母さん、本当にありがとう」と。

携帯電話が普及し、いつでも誰とでも繋がれる時代になりましたが、こんな思い出が残るのも素敵ですね。

「編集後記」

楽しみにしていたゴールデン・ウィークも過ぎてしまえばアッという間。また元のお忙しい日常に戻られたことと思います。
楽しい思い出がたくさん増えた分、お疲れは残っていませんか？　あまり無理をせず徐々に整えましょう。
さて八十八夜も過ぎて、いよいよ夏がそこまで訪れているようです。
日差しも少しずつ強くなってきますが、体調管理を怠らずお元気で夏をお迎えください
当社では、**新築**に限らず**増改築やリフォーム**等のご用命を承っています。お困りごとを含め、どんなことでもお気軽にお声掛けください。　ご連絡お待ちしています。
今月号もお読みいただき有難うございました。

「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。
ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者　渡辺　田鶴子